

磁器生産の開始

江戸時代末期頃まで、江戸などの消費地では九州の肥前産磁器が食器の主体を占めていました。しかし、天保年間（1830-1843年）以降、美濃窯での磁器生産が本格化すると、次第に生産量が増加し、肥前産磁器に代わるように普及していきます。

明治時代に入り、窯屋の数を制限する窯株制度が廃止され窯業活動が自由になると、摺絵や銅版などの新しい絵付け技法の導入や、安価な外国産の顔料の輸入によって、精巧で鮮やかな磁器製品が量産されるようになりました。こうして美濃窯の製品は、全国各地に出荷され、明治20年代末には全国第一位の産出額となり、国内生産額の3分の1を占めるほどになりました。

今号で、「一三〇〇年の先へ」は終了します。長い間ご愛読ありがとうございました。4月15日号からは、美濃陶磁歴史館で開催する展示に関連した内容をご紹介します。「美濃陶磁歴史館だより」を掲載予定です。



銅版ウィロー図大皿



摺絵高砂図大皿

プライベートガイド 文化プラザ ☎ 5711



文化プラザ

第37回 土岐市文化団体連盟祭

サンホール 入場無料

毎年恒例となりました、文化団体連盟祭を今年も開催します。市内外で活躍する各団体のステージ発表をお楽しみください。



- 4月23日(土)** 午後1時開演
 - 三味線・民謡
 - 馬子唄
 - ハーモニカ
 - フラダンス
 - 民謡
 - 吟剣詩舞
 - 児童舞踊
 - キッズダンス
 - 箏曲
- 4月24日(日)** 午後1時開演
 - 長唄
 - 箏曲
 - 三味線・民謡
 - きもの着付
 - 日舞
 - 和太鼓
 - 尺八
 - フラダンス
 - 新日舞
 - 民謡
- 4月29日(金・祝)** 午後2時開演
 - 合唱
 - ピアノデュオ

